

造林事業の省力化への取り組みと地域への普及

網走西部森林管理署 西紋別支署

背景

人工林の成熟に伴い、徐々に間伐から主伐に移行していく。今後は伐採後の再造林にかかるコストの低減と省力化が大きな課題となっている。



地域の課題

労力の低減が必要

・造林の作業は機械化が困難な重労働であり、作業時期は季節に集中し雇用が継続しない。

コストの低減が必要

・木材価格の低迷により、伐採した木の代金で再造林が困難な状況も生じている。

作業の省力化が必要

・地域の過疎化が進んでおり、森林・林業に関する労働力が不足する。



そのために、

- ・低コストで省力化が図られた施業の確立
- ・雇用が継続する作業や事業の計画的な組み合わせ

将来の目標

林業・林産業が地域の産業として、利益のある継続的に安定した産業となることを目指す。

平成27年度の取り組み

・地域合意による取り組みに向けて

●各種会議での活動

再造林の増加に対応していくためには、現状の理解と向かうべき方向性等について、地域の理解を得る必要性を、市町村の実務者が集う実行管理推進チーム、林政連絡会議等においての説明を繰り返してきました。

●意見交換会の開催

当支署において、地域の木材関連事業者が集い意見交換を行う「西紋地区林業・林産業に関する懇談会」を実施しました。

懇談会では、従来の木材供給量や価格に関する話題のほか、苗木量産化の必要性などの意見も出されるようになり、地域全体で取り組んでいく方向性について合意を得られました。



・低密度植栽試験地の設定

育林コストの低減のために「低密度植栽試験地」を設定しています。

誘導伐（帯状皆伐）伐採跡地にコンテナ苗や普通苗をそれぞれ1,000本/HA・1,500本/HAを植栽し下刈りを全刈りと筋刈りとする等、様々な比較が出来るよう設定し、今後、実証試験を行っていくこととしています。

・低コスト化への技術の共有

国有林で進めている伐採と造林の一貫作業や低密度植栽実証試験等を紹介するとともに、道有林においても機械化を前提とした造林地の造成技術開発の現地検討会の開催や紹介が行われ、地域全体での低コスト化への取り組みが現実的な視点での議論へと進んでいます。



今後の取り組み

設定した低密度植栽実証試験地におけるコスト比較や侵入する天然木のモニタリング等を現地検討会などを含めて開催し、国有林の取り組みを通じて地域に低コスト化の技術の普及を行っていく。